

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070102557
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会
事業所名	グルーホーム 紀伊てまり苑
訪問調査日	平成20年10月3日
評価確定日	平成20年11月25日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

「取り組みの事実」

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

「取り組みを期待したい項目」

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

「取り組みを期待したい内容」

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

作成日 2008年11月15日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070102557		
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会		
事業所名	グルーホーム 紀伊てまり苑		
所在地	和歌山市西田井224番地 (電 話) 073-462-6020		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90.6 歳	最低 83 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院、クリニックもり、中西歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地内に法人の運営する施設等と共に当該グループホームがある。協力医療機関の医院も同敷地内にあり連携が取れている。門から庭の中を通り玄関まで続くアプローチは庭先からお宅にお伺いするというような造りで、彩り華やかな季節の花々が両側に植えられている。各居室の窓からは庭の花々が楽しめ、リビングの窓の外には広々とした田園が広がっている。それぞれの入居者がいつまでも必要とされていると思ってもらえるよう、達成感や生きている喜びを感じられるケアの提供がなされており、入居者と職員の表情も生き生きとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けたあと、災害時の訓練については職員だけでなく入居者も参加して行うように改善した。運営推進会議のメンバーに行政からの参加をという課題については市の協力が得られにくく支所にも働きかけたが実現していない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長・管理者・職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、改善に向けて協力して取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、民生委員・老人会・自治会役員・職員・家族の参加で開催されている。家族からの意見をとりあげてサービス向上に活かした。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	施設長・管理者・職員は家族の訪問時、意見・苦情があれば聞けるようにコミュニケーションを密に取って、家族の声を運営に反映させている。玄関に意見箱が置かれており、母体法人には第三者委員会が設置されているが、グループホームの苦情や意見が挙がった事はない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会・老人会には加入していないが、催しの情報は入るので随時参加している。日々の買い物や散歩で地域とつながり、近隣の住民と庭の草引きや花の植え付けなどを行っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会の中で支援を受けながら高齢者が安心して生活できる事を目指すという理念を作り、玄関・事務所に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝職員で理念を読み上げ、今日1日のケアの目標としていることをひとつポイントにあげ職員の意識付けをし、ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の「紀伊文化まつり」に入居者の作品を出品して入居者と共に出かけている。日々の買い物や散歩で地域とつながり、庭の草引きや花の植え付けなどを近隣の住民と行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、前回の評価を受けたあと、災害時の訓練が職員だけであったのを入居者も参加するように改善した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。メンバーは民生委員・老人会・自治会役員・職員・家族である。家族からの意見をとりあげてサービス向上に活かした。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌「てまりランド」を市町村に届けているが、連携の体制までにはなっていない。	○	運営推進会議には市からの参加がない。地域密着型サービスに行政との意見交換は必要と思われるので、今後地域包括支援センターも含めて、まずは会議への参加を呼びかけるところから市町村との連携を形作ることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の折々の生活は季刊の「グループホームだより」で、個々の健康状態や金銭管理等は家族の訪問時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体法人には第三者委員会が設置されている。運営者・管理者・職員は家族の訪問時には意見苦情があれば聞かせてもらえるよう心がけて対応しており、家族の声を運営に反映させサービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑える努力をしている。職員のストレスや仕事のしやすい環境にも配慮されており、この1年間の離職は0である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に母体法人の勉強会に参加しているほか外部の講演会等にも随時参加している。意欲のある職員の資格取得など職員に応じた研修を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員にとって地域の同業者との交流の機会は研修時だけであり、他のグループホームを訪問した経験のある職員はほとんどいない。グループホーム連絡会には加入していないが案内を受けた催しに参加することはある。	○	日々のケアサービス提供において同業者との交流から得られるものは大きいとの認識を持ち、他のグループホームへの訪問見学など職員の更なる向上心や意欲をくみ上げる取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしてもらっている。母体法人のデイサービスを利用していた入居者がほとんどで、馴染みやすくなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は共に食事の支度・買い物・洗濯物をたたんだりしながら一緒に生活している感覚を持ち、自然に寄り添い、喜怒哀楽を共にした時間を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中から、一人ひとりの思いをつかめるよう努力している。足を良くしたいという思いの入居者が、地域にある「足神さん」へ参りたいという希望を聞き実現に向け計画している。入居者はその日を心待ちにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に1回介護計画を見直し、訪問してくれる家族へ報告をし、話し合いをもち介護計画を作成している。本人の意向は日々のコミュニケーションの中から汲みとり反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態の変化に応じて家族に報告・話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携が取られており、緊急時にも看護師による24時間の支援が来ている。また入居者の要望に応じ特別な外出支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望をもとに、かかりつけ医の受診を支援しているが、ほとんどが協力医療機関を希望している。眼科・歯科は個々に家族が付き添って受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに多くの看取りの実績を持っている。入居時に終末期のあり方を聞き、家族の意思を確認する「看取り伺い書」を作成している。協力医療機関とも連携が取れており、関係する他職種が職員と方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応をしないよう注意している。記録などは事務所内の直接見えないところに置いてある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞き、納得しながら暮らせる支援をしている。事業所側の一方的な提供でなく、行事の開催では入居者と職員が全員で会議を開き企画・意見・決定を行うようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付けなど職員と入居者が共に楽しんで行っている。四つのテーブルで温もりのある会話が聞かれる和やかな食事風景が見られる。事業所としては職員の休憩も必要と考え、食事を共にする職員は通常は毎回1名としている。	○	職員と入居者が、同じテーブルで一緒に食事をする事で互いの関係が深まり入居者の張り合いや喜びが広がる可能性もある。皆が食事を共にできるような取り組みの検討を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午後の時間帯と決めているが、希望があればそれ以外でも支援している。入りたくない場合は無理にはすすめないが、入居前は長期間入浴を拒否していた入居者が職員の粘り強い声かけで入浴を楽しめるようになった例もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、塗り絵、貼り絵、野菜や花の植え付けなど一人ひとりが楽しみを感じられる支援をしている。地域のコミュニティーセンターや図書館・喫茶店へ出かけたり、季節の花見などの外出と、多彩な気晴らしの支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周りには自然があふれ、散歩や買い物に出かけて近隣の人とのふれあいが出来る環境にあり、その日の希望により支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関にいたるまでの庭の入り口も、建物の玄関も自由に出入りができるよう開放している。職員は施錠が好ましくない事を理解し、入居者に常に注意を払って鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の避難訓練のうち2回は入居者と共に行っている。地域の消防署とも交流があり協力が得られる。地域の避難場所になっており、水は地元の分も備蓄している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別のノートを作り記録し、また日々の関わりの中で一人ひとりの栄養摂取・水分量などを把握して、状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に庭で育てた花が飾られ季節感が取り入れられており、食堂の大きな窓の外には田園風景が広がり明るく気持ちのよい空間となっている。壁には家族や本人に喜んでもらえるように塗り絵等の作品やイベント等の写真を掲示している。	○	さらに、入居者一人ひとりの感覚や価値観を大切に し外来者等の気づきも聴きながら、家具や調度品の配置、装飾等を工夫し、家庭の延長として、より一層生活感があり安心感を得られる共用空間を形作っていくことを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込み、好みのカーテンをかけて、入居者がその人らしく居心地よく過ごせるよう配慮をしている。庭に面したそれぞれの居室の窓からは季節ごとの花が楽しめるよう工夫されている。		